

6. 河内長野市金剛寺一切経附経箱調査

正瑞 千幸

1. はじめに

大阪府河内長野市の天野山金剛寺が所有する一切経は、2021年度に大阪府指定有形文化財として指定された。中世史ゼミはその指定に向けた調査に携わり、昨年度は聖教の所在調査を行った。これに加えて2022年度にはかつて一切経を納めていた経箱を追加指定するために、経蔵に別置されている経箱の調査を実施した。

2. 調査概要

調査日 2022年6月27日、7月11日

調査場所 河内長野市天野山金剛寺経蔵

調査員 三好英樹（大阪府教育庁文化財保護課）、横内裕人（教員）、正瑞千幸（博士前期課程）、東拓宏、藤村昂輝（以上学部4回生）（敬称略）

調査内容 撮影、計測、墨書記録

3. 成果

調査対象の経箱は入子状のものも含めて102合ある。寸法の多様さや制作時期のばらつきが見られることから、中世から近代に亘って修理や新調を繰り返しながら取り揃えられたと考えられる。その一例として、寛文6年（1666）に仁和寺顕証が経箱22合を寄進したという墨書があり、その内の17合が現存している（写真）。また、京都帝国大学国史研究室や河内長野市史編纂委員会などが行った際の調査ラベルが大部分の箱に貼り付けられており、これまで行われた金剛寺一切経の調査履歴も明らかとなった。

本調査の結果、墨書等から金剛寺一切経を納めたことが確実に判断された経箱30合が追加指定され、その他の経箱も参考資料として経箱の附指定目録に掲載されている。このような箱の調査によって聖教の伝来や現在に至る保存活動を窺い知ることが出来ることから、聖教や文書だけでなく、それらが保管される箱の調査も併せて行なうことが重要だと改めて実感する機会となった。



写真1 蓋裏墨書

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
